



## 電話機の更新

---

デバイス プールの変更または追加、あるいは類似した一連の電話機のコーリング サーチ スペースなど、電話機の設定値を更新するには、Update Phones オプションを使用します。次の2つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機の更新 \(P.7-2\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の更新 \(P.7-4\)](#)

## クエリーを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのクエリーを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** **Bulk Administration > Phones > Update Phones > Query** の順に選択します。

Update Phones Query ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずに **Find** をクリックすると、すべての電話機を更新できます。P.7-5 の「更新パラメータの選択」に進みます。

**ステップ 2** 最初の Find Phone where ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索基準を選択します。

- Device Name
- Description
- Directory Number
- Calling Search Space
- Device Pool
- Device Type
- Call Pickup Group
- LSC Status
- Authentication String
- Location
- Phone Load Name
- Device Protocol
- Security Profile

2 番目の Find Phone where ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索基準を選択します。

- begins with
- contains
- is exactly
- ends with
- is empty
- is not empty

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

**ステップ 4** クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、Search Within Results チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから **AND** または **OR** を選択して、ステップ 2 ～ 3 を繰り返します。

**ステップ 5** **Find** をクリックします。

検索された電話機のリストが表示されます。

Update Phones ウィンドウに、選択した電話機の詳細が表示されます。

---

電話機を更新する手順を完了するには、P.7-5 の「更新パラメータの選択」に進みます。

## カスタム ファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのカスタム ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. 更新が必要なデバイスを識別します。
2. 次のオプションのいずれかを別個の行に記載したテキスト ファイルを作成します。
  - MAC アドレスおよびデバイス名
  - 電話番号



(注) 同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は別のカスタム ファイルに入れる必要があります。

3. テキスト ファイルを Cisco CallManager サーバにアップロードします。詳細については、[P.2-5 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

カスタム ファイルの電話機のリストを使用して電話機を更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** **Bulk Administration > Phones > Update Phones > Use Custom File** の順に選択します。

Update Phones Custom Configuration window ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Update Phones where ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの基準から選択します。

- Device Name (MAC アドレスを含む)
- Directory Number
- Description

**ステップ 3** カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

**ステップ 4** **Find** をクリックします。

クエリー結果が予想どおりではなかった場合は、カスタム ファイルの選択を変更することができます。

電話機を更新する手順を完了するには、[P.7-5 の「更新パラメータの選択」](#)に進みます。

## 更新パラメータの選択

電話機を検索するためのクエリーまたはカスタム ファイルを定義した後、電話機を更新するためのパラメータを選択して値を定義する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Update Phones Query ウィンドウで、**Next** をクリックします。選択したクエリーのタイプが、Update Phones に表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、**Back** をクリックします。
- ステップ 2** クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、[P.7-6 の「電話機を更新する場合のフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 3** チェックマークが付いたパラメータの Value フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 4** Reset/Restart Phones 領域で、次の選択項目のいずれかを選択します。
- **Don't Reset/Restart devices** : 後でデバイスをリセットまたは再起動する。
  - **Reset devices** : 電話機をリセット（電源をオン/オフ）する。
  - **Restart devices** : 電源のオン/オフをせずに電話機をリセットする。
- ステップ 5** 必要な電話機パラメータを更新します。電話機を更新する場合のフィールドの説明については、[表 7-1](#)を参照してください。
- ステップ 6** **Submit** をクリックして、レコードを更新するジョブを作成します。
- ステップ 7** Bulk Administration メイン メニューの Job Scheduler オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 51 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.54-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

### その他の項目

詳細については、[P.7-13 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話機を更新する場合のフィールドの説明

表 7-1 では、電話機を更新する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。関連する手順については、P.7-13 の「関連項目」を参照してください。

一部のフィールドに示される値は、Cisco CallManager から表示されます。これらの値は、Cisco CallManager Administration を使用して設定する必要があります。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Description	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。
Device Pool	このグループの電話機またはポートが属するデバイス プールを選択します。  デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット（たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース）を定義します。
Phone Button Template	適切な電話機ボタン テンプレートを選択します。電話機ボタン テンプレートは、電話機に表示するボタンの設定を決定し、各ボタンをどの機能（回線、短縮ダイヤルなど）に使用するかを指定します。  Cisco CallManager では、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対するこのフィールドを利用できません。
Softkey Template	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
Calling Search Space	このグループの電話機またはポートが属するコーリング サーチ スペースを選択します。  コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング（AAR）の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
Media Resource Group List	このグループの電話機またはポートが属するメディア リソース グループ リスト（MRGL）を選択します。  MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位にしたがって、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
User Hold Audio Source	このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。  ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに音楽を再生します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
Network Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオ ソースを選択します。  ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したとき、またはコールパークに置いたとき) に音楽を再生します。
Location	このグループの電話機またはポートが属するロケーションを選択します。  ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモートロケーションを指します。
User Locale	このユーザに関連付ける国 / 地域と言語を選択します。  この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
Network Locale	このユーザに関連付けるネットワークロケールを選択します。  Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。
Built in Bridge	Built In Bridge ドロップダウン リスト ボックスを使用して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします (On、Off、または Default を選択します)。  設定情報の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
Privacy	プライバシーを必要とする電話機ごとに、Privacy ドロップダウン リスト ボックスで On を選択します。  設定情報の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
Owner User ID	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Phone Load Name	該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。   <b>(注)</b> このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きし、Cisco IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを指定します。
Ignore Presentation Indicators	システムで表示インジケータを無視する必要がある場合に、このチェックボックスをオンにします。
Retry Video Call as Audio	ビデオ コールをオーディオ コールとしてリトライするには、このチェックボックスをオンにします。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
Allow Control of Device from CTI	このチェックボックスをオンにすると、CTI がこのデバイスを制御、監視できます。  関連付けられた電話番号が共有回線を指定している場合、少なくとも 1 つの関連付けられたデバイスが、デバイス タイプおよび CTI がサポートするプロトコルの組み合わせを指定している限り、チェックボックスをオンにする必要があります。
<b>Protocol Specific Information (プロトコル固有情報)</b>	
Packet Capture Mode	ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。  None : モードを指定しない場合は None を選択します。  Real-Time Mode : リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。  Batch Processing Mode : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
Packet Capture Duration	パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。
Presence Group	プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。  電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを Presence Group Configuration ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。   <b>ヒント</b> プレゼンス機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
SCCP Phone Security Profile	SCCP 電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。選択したプロファイルが電話機がサポートしていない場合は、Cisco CallManager で設定が適用できません。  すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュアなプロファイルを選択します。   <b>ヒント</b> プロファイルに設定されている CAPF 設定は、Phone Configuration ウィンドウに表示される Certificate Authority Proxy Function 設定に関連します。製造元でインストールされた証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理するには、プロファイルと Phone Configuration ウィンドウの両方で、CAPF 設定値を指定する必要があります。



表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
SUBSCRIBE Calling Search Space	<p>プレゼンス機能で使用すると、電話機からの登録要求を Cisco CallManager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースによって決まります。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p></p> <p><b>ヒント</b> プレゼンス機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』を参照してください。</p>
Unattended Port	このチェックボックスをオンにして、デバイス上の不在ポートを示します。
Require DTMF Reception	SIP 電話機および SCCP 電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。
<b>External Data Locations Information (外部データの場所の情報)</b>	
Information	情報ボタン用のヘルプテキスト URL を入力します。
Directory	ディレクトリサーバの URL を入力します。
Messages	ボイスメッセージのアクセスパイロット番号を入力します。
Services	サービスメニューの URL を入力します。
Authentication Server	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco IP Phone の拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco IP Phone User Options ウィンドウにアクセスします。</p>
Proxy Server	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドを空白のままにします。</p>
Idle	Idle Timer フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco IP Phone ウィンドウに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、ウィンドウにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドを空白のままにします。
Idle Timer	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は Idle フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドを空白のままにします。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Extension Information (内線情報)</b>	
Extension Mobility	この機能を無効にする場合は 0-Off を選択し、有効にする場合は 1-On を選択します。  エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
IP Services1	設定されている任意のサービスを選択するには、Cisco CallManager Administration を使用します。
IP Services2	設定されている任意のサービスを選択するには、Cisco CallManager Administration を使用します。  Cisco CallManager Bulk Administration (BAT) では、1 つのトランザクション内で複数の IP サービスを更新することはできません。
<b>Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information (認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報)</b> (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます)	
Certificate Operation	ドロップダウンリストボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>No Pending Operation</b>: このデバイスには処理中の証明書のオペレーションリストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。</li> <li>• <b>Install/Upgrade</b>: 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。</li> <li>• <b>Delete</b>: 証明書のオペレーションを削除します。</li> <li>• <b>Troubleshoot</b>: 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。</li> </ul>
Generate Unique Authentication Device for Each Device	このチェックボックスは、必要に応じてオンに設定します。
Authentication String	Authentication Mode が By Authentication String の場合は、Authentication String を入力します。または、システム生成の文字列を入手するために <b>Generate String</b> をクリックします。
Operation Completes By	証明書のオペレーションを完了する期限の日付を入力します。日付形式は、YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日付は現在のシステム日付の 10 日後です。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
<b>MultiLevel Precedence and Preemption (MLPP) Information (マルチレベル優先順位およびプリエンプレッション (MLPP) 情報)</b>	
MLPP Indication	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Default : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。</li> <li>• Off : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。</li> <li>• On : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。</li> </ul> <p> (注) MLPP Preemption が <i>Forceful</i> で MLPP Indication が <i>Off</i> という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
MLPP Preemption	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプレッション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Default : デバイスは MLPP プリエンプレッション設定値をデバイス プールから継承します。</li> <li>• Disabled : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプレッション処理しません。</li> <li>• Forceful : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプレッション処理します。</li> </ul> <p> (注) MLPP Preemption が <i>Forceful</i> で MLPP Indication が <i>Off</i> という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
MLPP Domain ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
<b>Secure Shell Information (セキュリティ保護されたシェル情報)</b>	
Secure Shell User	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。
Secure Shell Password	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Assign IP Phone Services (IP Phone サービスの割り当て)</b>	
Add All Services From This Template	ドロップダウン リスト ボックスから、電話の更新に使用するサービスのリストが入ったテンプレートを選択します。  <b>Edit IP Phone Service</b> リンクをクリックすると、テンプレート上の登録済み Cisco IP Phone サービスを更新できます。
Remove Duplicate	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムでは、IP サービス名に基づいてサービスが削除されます。
<b>Product Specific Information (製品固有情報)</b>	
Device Security Mode	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。  Use System Default: 電話機はエンタープライズ パラメータ、Device Security Mode で指定した値を使用します。  Non-secure: 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco CallManager が利用できます。  Authenticated: Cisco CallManager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。  Encrypted: Cisco CallManager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。  このフィールドが適用されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。
Remove Duplicate IP Services from all Phones and Device Profiles	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムでは、IP サービス名に基づいてサービスが削除されます。
Disable Speakerphone	スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
Disable Speakerphone and Headset	スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
Forwarding Delay	このフィールドを使用して転送遅延を有効または無効にします。コールの転送前にポートを数秒間遅延させる場合、有効にします。
PC Port	このフィールドを使用して内部スイッチを持つ電話機の PC ポートを有効または無効にします。ユーザは、電話機背面の「10/100 PC」というラベルの付いたポートを使用して、PC またはワークステーションを電話機に接続できます。
Setting Access	このフィールドを使用してユーザが電話機設定値にアクセスするかどうかを選択します。Enabled および Disabled を選択できます。
Gratuitous ARP	Gratuitous ARP を制御するには、Enabled または Disabled を選択します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
PC Voice VLAN Access	PC ボイス VLAN へのアクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Video Capabilities	ビデオ機能アクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Auto Line Select	電話機での自動回線選択を制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Web Access	電話機での Web アクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。



(注)

手順を完了するには、P.7-5 の「更新パラメータの選択」に進みます。

## 関連項目

- クエリーを使用した電話機の更新 (P.7-2)
- カスタム ファイルを使用した電話機の更新 (P.7-4)
- 更新パラメータの選択 (P.7-5)
- 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (P.7-6)

